

今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が3例あります。累積報告数は61例です。型別報告数は、O26 33例(内 集団発生 1件 22例)、O103 1例、O145 3例、O157 24例です。
- ウイルス性肝炎(B型)の報告が1例あり、本年の累積報告数は2例です。推定感染経路は、性的接触 異性間 1例、同性間 1例です。
- 手足口病の定点当たり報告数は2.15で、ピーク時に比べ少なくなっていますが、平成12年以降の同時期と比較すると、最も報告数が多かった平成12年(2.71)に次いで多くなっています。
- 百日咳の報告が1例あります。本年の累積報告数は35例で、これは平成12年から平成19年の同時期(9例～22例)と比べ、最も多い報告数です。

今週のトピックス:<咽頭結膜熱>

- 咽頭結膜熱の第32週の定点当たり報告数は、0.83(34例)で、これは、本年で最も多い報告数です。詳細をトピックスに掲載しています。

発生状況

全数報告の感染症

- 二類:結核 5例(喀痰塗抹陽性 3例,無症状病原体保有者 なし)
【1月以降の累積報告数 223例(喀痰塗抹陽性 72例,無症状病原体保有者 20例)】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症(O26 VT1VT2, O157 VT1, O157 VT1VT2) 3例 【1月以降の累積報告数 61例】
- 四類:デング熱 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- 五類:ウイルス性肝炎(B型) 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- 五類:麻疹 1例【1月以降の累積報告数 105例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	感染性胃腸炎	2.41	99
	手足口病	2.15	88
	ヘルパンギーナ	1.22	50
	咽頭結膜熱	0.83	34
	水痘	0.59	24
眼科	流行性角結膜炎	0.90	9

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
コクサッキーウイルスA4型(2)	ヘルパンギーナ(第28週) 不明(第28週)	NP NP	コクサッキーウイルスB5型(2)	感染性胃腸炎(第28週) かぜ症候群(第29週)	NP,FC NP
コクサッキーウイルスA7型(1)	かぜ症候群(第29週)	NP			

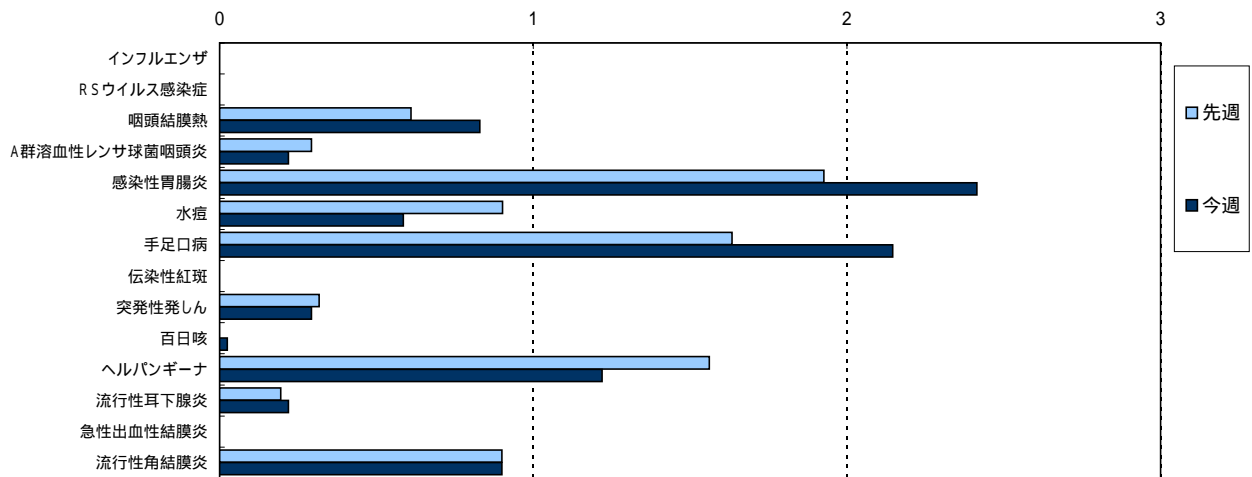
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<咽頭結膜熱>

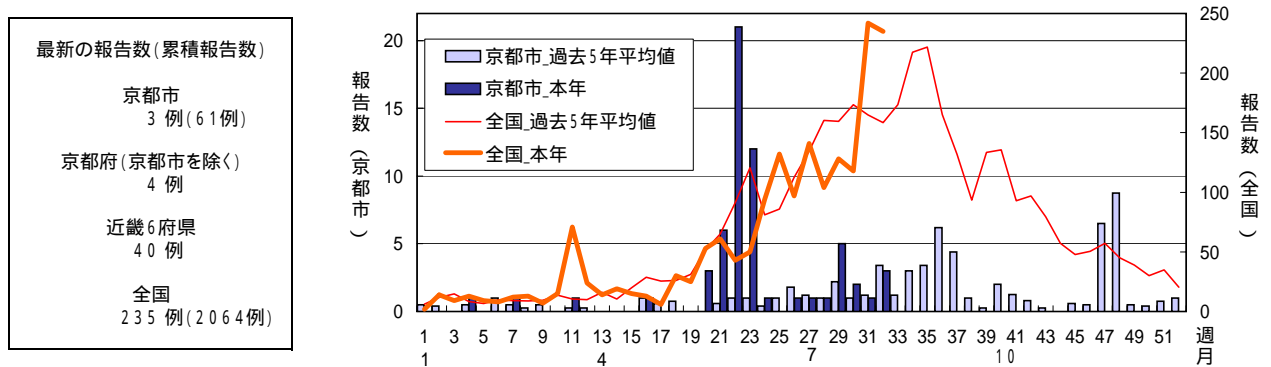
(注)京都市のデータは、平成20年8月15日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

発生状況の概況グラフ

1 今週(第32週)と先週(第31週)の定点当たり報告数の比較

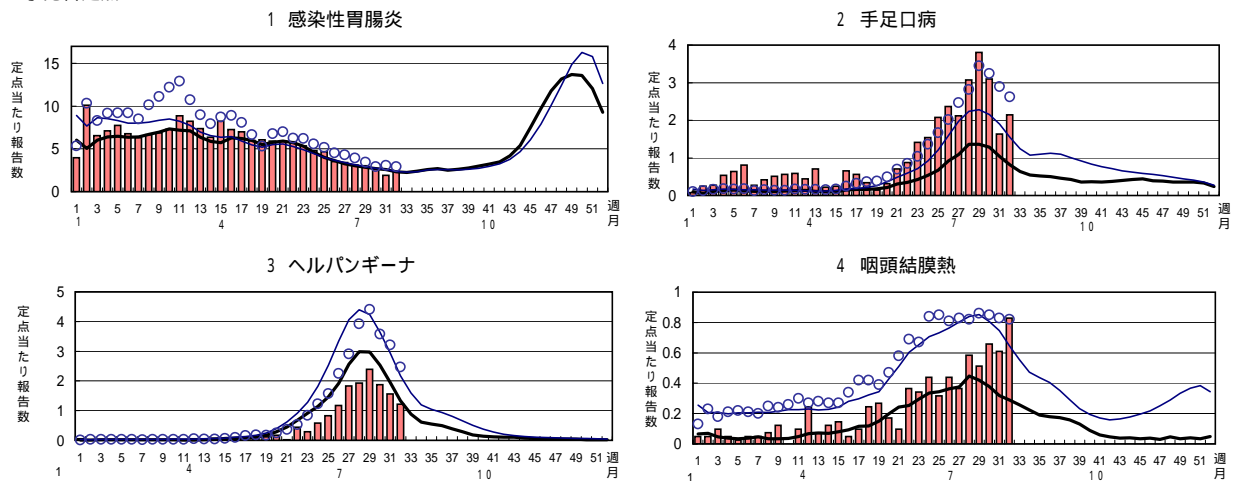


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

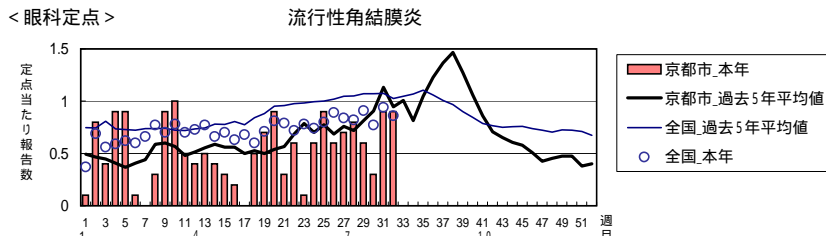


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



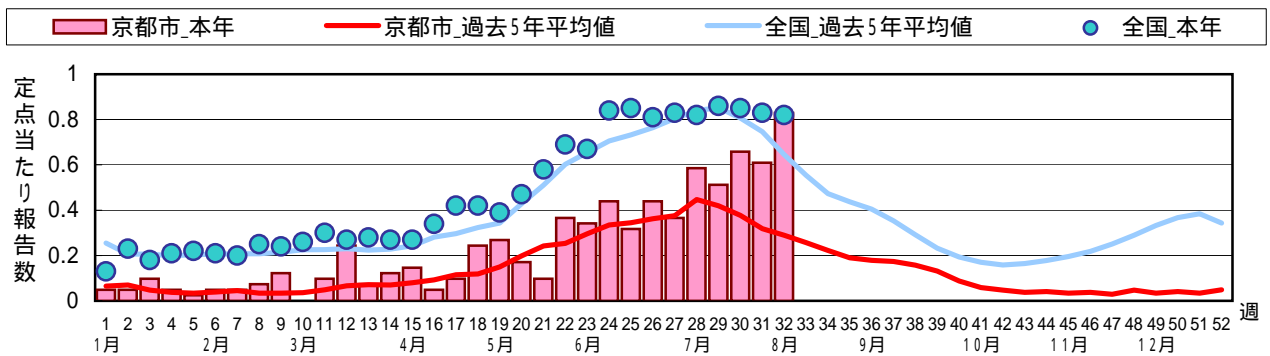
今週(第32週)のトピックス: < 咽頭結膜熱 >

咽頭結膜熱の第32週の定点当たり報告数は、0.83(34例)で、これは、本年度で最も多い報告数です。

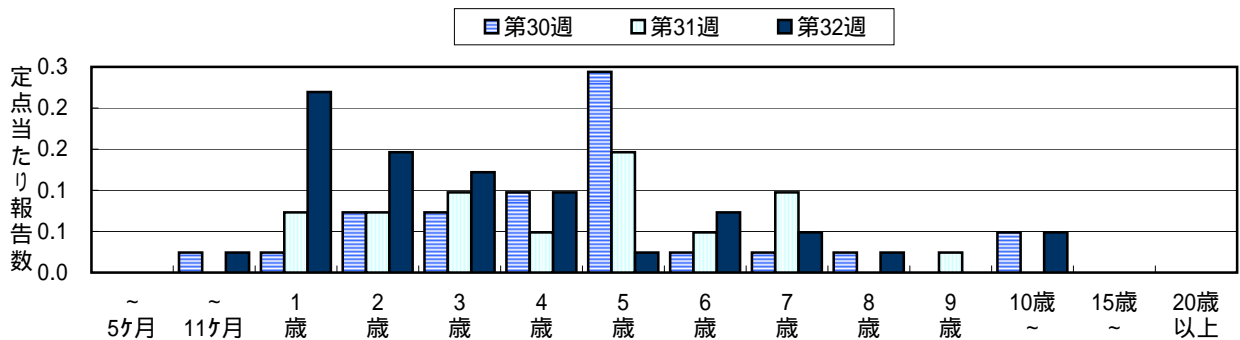
第30週以降の3週について、本市の定点当たり報告数を年齢階級別で比較すると、第30週及び第31週では5歳が最も多いのに対し、第32週では1歳が最も多く、以下、2歳、3歳、4歳、6歳と続いています。

同様に、これを行政区別で比較すると、3週連続して報告があるのは、上京、中京、右京及び西京の4区で、山科及び下京の2区からは、報告がありません。

定点当たり報告数の推移(平成20年第1週～第32週)



本市 定点当たり報告数 年齢階級別推移(第30週～第32週)



本市 定点当たり報告数 行政区別推移(第30週～第32週)

